

雑芸員のお仕事  
害虫の侵入を防ぐ  
横山謙二

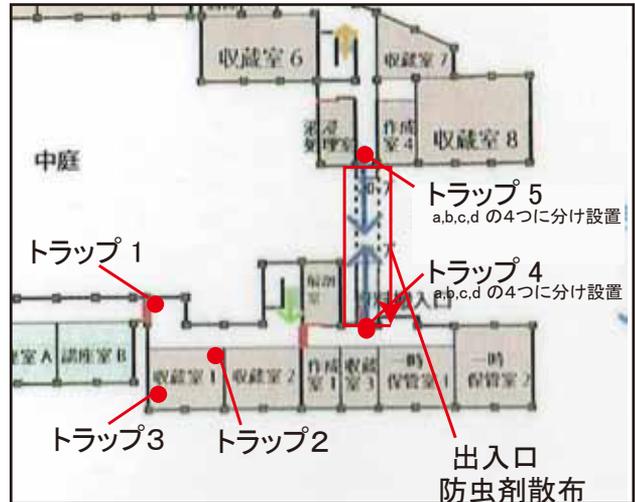


2019年1月～6月にかけて捕獲された虫類(トラップ5).

当NPOでは2016年から、ふじのくに地球環境史ミュージアムのバックヤード出入口と収蔵室内の各所にトラップを設置し、標本害虫進入の有無を調査してきました。その結果バックヤード側の出入口より大量の虫類が進入していることがわかってきました。

今年度の6月12日～7月12日にかけての約1ヶ月間、バックヤード各所に調査用トラップを設置し、その捕獲内容や数を調査しました(調査I)。その結果、捕獲された虫類は、ヤスデ類40、オカダンゴムシ142、クモ類20、カマキリ目1、アリ類2、その他甲虫5(ヒゲジロハサミ2、ゴミムシの仲間1、アオカミキリモドキ1、コメツキムシの仲間1)、ハエ目複数(微小で数えきれないほどの捕獲)でした。この捕獲された虫類の中で、ハエ目が一番多いのですが、これは毎年、梅雨時に大量発生するキノコバエの仲間で、困ったことに密閉度の高い、標本室内でも大量に捕獲が確認されます。

このキノコバエの仲間以外で多く捕獲されるのは、ヤスデ類とオカダンゴムシです。この両グループともに、暗く湿った場所を好みます。そのためか、日当たりの悪く湿ったバックヤード出入口周辺には多く生息し、室内の廊下でも徘徊しているのを見ることができます。また、他の虫類とくらべ成虫の期間が長く、成虫で越冬するため、ほぼ1年中見られます。この両グループともに標本を加害する恐れは、ほとんどありませんが、その死骸はゴキブリ類などの標本害虫の餌となり、標本



トラップ設置箇所



防虫剤を散布。段差・角や溝にライン状に散布。

害虫を呼び込んでしまう恐れがあります。

そこで、ヤスデ類・オカダンゴムシの侵入を防ぐため、7月23日に防虫剤の散布を行いました。散布した防虫剤は『ムリクリン粒剤』という商品で、博物館のIPMモニタリングに使用するトラップなどを販売するイカリ消毒株式会社の商品です。防虫剤は一見ただの白い砂のように見えますが、耐水性、耐風性を持ち、アリ類やダンゴムシ類、ヤスデ類などに防虫効果があり、散布後1ヶ月間効果が持続するものです。

防虫剤の散布は、まず散布する出入口エリア周辺の清掃を行い、虫類の隠れ場所となる荷物をかたづけけたあとに、出入口を囲うように2Kgの防虫剤を散布しました。また調

査Ⅰと同じところに、7月23日～8月22日にかけて調査用トラップを設置し、捕獲内容と数を比較することにしました（調査Ⅱ、トラップ設置箇所参照）。

その結果、調査Ⅰの捕獲数が、ヤスデ類 40、オカダンゴムシ 142 であったのに対し、調査Ⅱの捕獲数は、ヤスデ類 11、オカダンゴムシ 53 で、調査Ⅰと比べ捕獲数の減少が見られました。トラップを設置した場所で見ると、調査Ⅰで最も多く捕獲された、バックヤード北側出入口（収蔵室 8 側）に設置したトラップ 5a では、ヤスデ類 2（調査Ⅰでは 9）、オカダンゴムシ 17（調査Ⅰでは 51）と大きく捕獲数が減少しました。この結果は、虫の活動が弱まるなどの季節的な差ではないかと思われる方もいると思いますが、防虫剤を散布した出入口からはなれた場所の講座室 B 近くに設置したトラップ 1 では、オカダンゴムシの捕獲数は 17（調査Ⅰでは 15）もあり、前調査とあまり差がありませんでした。おそらく、トラップ 1 で捕獲された虫類の侵入経路は、フロントヤードとバックヤード境界付近の建物の間隙やヒビより侵入したものと考えられます。今後、この周辺にも防虫対策を考えた方がよさそうです。

調査Ⅱでは、ヤスデ類・オカダンゴムシに対する防虫剤の効果がわかりましたが、トラップ 5a では、その侵入数が減ったとはいえ、まだオカダンゴムシ 53 も捕獲されています。そこで、今度は、防虫剤の量を増やし、その効果を調べるため調査Ⅲ（8月23日～9月23日トラップ設置）を実施しました。

調査Ⅲでは、北側（収蔵室 8 側）出入口のみ防虫剤 4 kg 散布し、南側には全く散布しませんでした。防虫効果の違いが見られると期待していたのですが、調査Ⅲではどのトラップの捕獲数も、以前の捕獲数と比べ、格段にさがり、ヤスデ類やオカダンゴムシですら、数匹しか捕獲できませんでした。かわりに、コオロギの仲間の捕獲が目立つようになりました。この結果は、季節的に虫類の活動が弱くなったためかもしれません。

調査Ⅲ終了後、新たに防虫剤を出入口付近に 4kg 散布しなおし、トラップを設置し、しばらく経過を観察することにしました。

11 月以降は、あまり大きな変化は無かったので、防虫剤の散布をやめていたのですが、2 月になり、トラップを確認したところ、ヤスデ類・ゴキブリなどの虫類、ヤモリが捕獲されていました。このことから防虫剤の効果



調査Ⅰ (6月12日～7月12日) トラップ 5a



調査Ⅱ (7月23日～8月22日) トラップ 5a



調査Ⅲ (8月23日～9月23日) トラップ 5a



10月以降放置し、4ヶ月後のトラップ 5a

が切れた状態で、長い期間放置すると、冬場でも多くの虫類が侵入することがわかりました。

今年度行った調査では、ある程度の防虫剤の効果を確認できました。今後は、防虫剤の散布量と散布時期を考慮していかなければならないようです。